

中干しは遅れずに行いましょう!

1. 生育状況と水管理

5月上旬までに移植した「コシヒカリ」や「みずかがみ」等の早生品種の生育は、還元障害が発生した一部ほ場では生育停滞が見られますが、概ね順調です。

移植時期の早晩に関わらず、**浅水管理**を基本とし、足を踏み入れて気泡が発生するような還元障害が出ているところでは、分げつ促進のため軽い田干しを実施しましょう。



中干し開始適期の株張り程度(目安)

2. 中干しの実施

中干しは、軽くひび割れ、足跡がつく程度まで行い、地耐力を高めましょう。

○中干し開始時期

4月下旬から5月上旬移植では6月10日頃、5月中旬移植では移植後1か月を目安に開始しましょう。



中干しの程度(ひび割れと足跡)

【中干し開始時期の株あたり茎数の目安】

栽植密度	50株/坪	60株/坪	70株/坪
コシヒカリ	20~21本	17~18本	14~15本
みずかがみ	—	16本	14本

○溝切り

中干し後の水管理を容易に行うため、溝切りをしましょう。

溝切り前に田面を少し固めてから、再度浅水にして溝を切ると崩れにくい溝を形成できます。

1) 溝切りは、1本/10a以上*が基本です。収穫前に乾きにくいほ場や水稻跡に麦を栽培する場合は、溝の本数を増やしましょう。

2) 溝と尻水戸(排水口)を確実につなぎます。

※環境保全型農業直接支払で「長期中干し」に取り組むほ場は、溝切りは1本/10a以上、中干しは14日以上実施してください。